

## 研究活動報告

### 「少子化について考える」発表会概要

2000年2月25日にJ Aビル(東京都千代田区大手町)で開催された、政策科学推進研究事業発表会「少子化について考える」では、少子化とそれを取り巻く社会経済環境に関する最新の研究報告が行われた。第一部では、「家族政策及び労働政策が出生率及び人口に及ぼす影響に関する研究」の成果が6人の研究者によって報告された。はじめに、阿藤誠国立社会保障・人口問題研究所副所長が最近の出生動向等を解説し、また研究全体の目的などの紹介があった。これに続き、5人の研究者がそれぞれの研究グループの代表として報告を行った。浅見泰司東京大学助教授は、「居住環境と晩婚化・少子化」をテーマに発表し、居住コストが出産の心理的負担になっていること、少子化対策のために居住の安定性や住宅の間取り等の拡充が必要であることを示した。吉田浩東北大学助教授は「育児の経済コストと晩婚化・非婚化」と題し、47都道府県別のクロスセクション・データを用いた合計特殊出生率の要因分析の結果を報告した。樋口美雄慶應義塾大学教授からは、「女子の就業行動と結婚・出産」に関する報告があり、マイクロ・データを用いた分析から、失業率の上昇は結婚、出産を遅らせること、賃金率の変動は結婚、出産のタイミングに有意な影響を及ぼさないことなどが示された。次いで、目黒依子上智大学教授から、「ジェンダーシステムと少子化」というテーマの発表が行われ、ジェンダーに関する価値観や意識が結婚回避または出産回避に直接結びつくという結果が報告された。最後に、加藤久和国立社会保障・人口問題研究所室長が、「出生力の経済モデルに基づく政策効果の分析」と題し、出生・結婚・労働参加及びマクロ経済を含めたモデル解析から、育児環境整備等は出生力を高める効果を有するものの、根本的には男女の平等意識等構造的な対策が必要である旨の報告を行った。第二部では、小倉千加子愛知淑徳大学教授による、「女性の未婚率上昇に関連する意識についての調査研究」結果が報告され、最近女性の間では専業主婦願望が増えつつあり、また男性も配偶者に対する専業主婦願望があるものの、両者が内実的に求める条件のミスマッチから男女とも「適当な相手にめぐり合わない」不遇を感じている、等の結果が紹介された。第三部では、前田正子ライフデザイン研究所副主任研究員は、「保育の実態に関する基礎的調査」の分析結果に基づき、保育ニーズの増大と保育資源の供給の少なさを指摘した。発表会は多くの聴衆を集め盛会の中で終了したが、その後も発表者への質問が続き、少子化に対する関心の高さがうかがえた。(加藤久和記)

### 第4回 厚生政策セミナー 「21世紀の家族のかたち」

「21世紀の家族のかたち - 国際比較の視点から」をテーマとした第4回厚生政策セミナーが、毎日新聞社の後援をうけて、2000年3月14日(火)に国連大学国際会議場において開催された。阿藤誠国立社会保障・人口問題研究所副所長の司会・進行のもと、以下の基調報告が行われた。

「先進諸国の出生・家族形成に関する近年の動向」

ロン・レスタギ(ブリュッセル自由大学人口学教授、大学間人口センター長)

「オーストラリアの家族関係: 保守・リベラル・革新の議論から」

ピーター・マクドナルド(オーストラリア国立大学人口学教授、人口プログラム長)

「ジェンダー、就業、家事：日本・韓国・アメリカの比較」津谷典子（慶應義塾大学経済学部教授）  
「日本における成人子と親との関係：比較社会の視点から」

西岡八郎（国立社会保障・人口問題研究所人口構造研究部長）

いずれの報告も調査データなどに基づいた近年の家族の諸側面を論じ、家族や人々の生き方に関する日本を含む先進諸国の将来像とその問題点にとって重要な指摘を含むものであった。

また、討論者に小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所国際関係部長）、野々山久也（甲南大学文学部教授）、袖井孝子（お茶の水女子大学生活科学部教授）、金 益基（韓国東国大学社会学部教授・上智大学客員研究員）の各氏を迎え、男女・夫婦関係、子育ての問題、世代間関係など、幅広いトピックについて活発な議論が行われた。（岩澤美帆記）

## 国際ワークショップ「ベトナムにおける持続可能な都市化、 女性の地位、宗教」

当研究所は、平成11～13年度地球環境研究総合推進費「アジア地域における環境安全保障の評価手法の開発と適用に関する研究」（H-4、主任研究者：原沢英夫・国立環境研究所室長）のサブテーマとして実施中の「アジア諸国における持続可能な都市化と人間・環境安全保障に関する研究」の研究発表会として、（財）アジア人口・開発協会との共催で2000年3月22日（水）午後、中央合同庁舎第5号館別館において国際ワークショップ「ベトナムにおける持続可能な都市化、女性の地位、宗教」（International Workshop on Sustainable Urbanization, Women's Status and Religion in Vietnam）を開催した。前半は小島による昨年度の予備的研究「東南アジア諸国の持続可能な都市形成における人口等の諸要因の相互影響に関する研究」（FS-7、主任研究者：小島 宏）の成果を含む2プロジェクトにわたる研究の概括的な報告、後半は招聘した2人のベトナムの共同研究者（Prof. Anh Nguyen DANG and Dr. Tran Thi HOA）によるハノイとホーチミン市（旧サイゴン）における実地調査（フォーカスグループ討論と面接調査）に基づく実証分析結果の報告がなされた。熱心な内外の参加者により活発な討論が行われた。なお、プログラムは以下の通りであった。

### Opening Remarks

Part 1: Overview of the Research Project, "Sustainable Urbanization, Women's Status and Religion in Southeast Asia" (Hiroshi KOJIMA, NIPSSR)

Part 2: The Case of Vietnam

“Urbanization in Vietnam: An Overview” (Anh Nguyen DANG, Institute of Sociology, Hanoi)

“Urban Environment, Religion and Women's Status in Vietnam: A Case Study of Hanoi” (Anh Nguyen DANG and Van Anh NGUYEN, Institute of Sociology, Hanoi)

“Religion, Women's Role in Sustainable Urbanization in Ho Chi Minh City, Vietnam” (Tran Thi HOA, University of Medicine and Pharmacy, HCMC)

### Concluding Remarks

(小島 宏記)